

「7億人の笑顔」

～人を優しい笑顔にできるディズニーのハピネス～



株式会社チャックスファミリー代表取締役・

元東京ディズニーランド運営部長

安 孫 子 薫

今年の7月末日に東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの累計ゲスト数が開業以来34年で7億人を達成しました。開業する1年前に東京ディズニーランドの運営会社に入社した私は成功こそ信じてはいましたが、想像をはるかに超えるこれほどの成功は考えられませんでした。

成功の要因はゲストを楽しませる考え抜かれた高品質なエンターテインメントや快適なパーク作りと、ホスピタリティに富んだキャスト（スタッフ）の運営力だと確信しています。

訪れるゲストは皆、パークに近づくにつれ次第に気持ちがワクワクして、いよいよ到着しパークに入ると、ゲストは一樣に優しい笑顔になり足取りが軽くなります。そして毎日こんな微笑ましい光景を見ている私自身もまた優しい幸福な気持ちにさせられたものです。このような世界に身を置いたディズニーパークでの26年間は私にとってかけがえのない素晴らしい経験になりました。

ディズニーの仕事から離れ一人のゲストとしてパークを体験してみると、人々を幸せにできる大きな力の存在を改めて感じるようになりました。

この夏、3歳になる孫娘と初めて二人でパークを訪ねました。次々に繰り広げられるパレードやショーを食い入るように見詰める孫の眼差しは真剣そのもの。すっかり「ディズニーの世界観」の中に入り込んでいました。ディズニーという大掛かりで良質なエンターテインメントは小さな子どもにとっては驚きの連続で勇気を必要とする刺激的な体験だと想像できます。同時にその体験は豊かなイマジネーションを育み、夢を見させてくれるものだと思って

います。

私はディズニーパークが単なるアミューズメントパークではなく、人類が生んだ20世紀最高の「総合エンターテインメント芸術作品」だと思っています。まさにそこは民族や国境の壁を越えた世界中の人々が魅了される場所なのです。

そのディズニーパークに何度でも行きたくなる理由の一つに「ホスピタリティ」があります。キャストたちにはしっかりした理念教育が施され、ミッションを明示し、仕事を行う上で常に意識し実行できるような仕組みがあります。そのミッションは「ゲストにハピネスを提供する」こと。実にシンプルでありながら普遍的で崇高な一言です。

ハピネスを提供するため、キャストは状況を問わず最善を尽くして行動します。もちろん行動するための規準として「Safety（安全）、Courtesy（礼儀正しさ）、Show（ショー）、Efficiency（効率）」があり、このままの優先順位で判断するように定められています。パークで見られるキャストの笑顔や親切な立ち振る舞いといったホスピタリティに満ち溢れた行動はこのような運営理念から生まれているのです。

創設者ウォルト・ディズニーは「ディズニーランドが完成することはない。世界に想像力がある限り進化し続けるだろう」という言葉を残しています。

ディズニーパークはこれからも子どものみならず大人の私たちにも、そして世界中の人々をたくさんの笑顔で心を開放し、生きる喜びや元気といった「ハピネス」を感じさせてくれるものと信じています。

次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～

幼児教育の無償化等を願い盛大に開催



▲安倍晋三内閣総理大臣による祝辞

9月25日、午後1時から東京・ホテルニューオータニにおいて、全日本私立幼稚園PTA連合会（河村建夫会長）の第32回PTA全国大会が開催されました。「次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～」を大会テーマに、全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約1,200人が参加しました。

本会では安倍晋三内閣総理大臣、林芳正文部科学大臣、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長、馳浩自由民主党幼児教育議員連盟事務局長にご臨席いただき、PTA連合会からは河村建夫衆議院議員（全日私幼P連会長）、森喜朗東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長（全日私幼P連最高顧問）、遠藤利明衆議院議員（全日私幼P連副会長）が出席され、衆議院議員、参議院議員合わせて約100名の国会議員ご臨席のもと、盛大に開催されました。

第1部の大会式典は、遠藤利明全日私幼P連副会



長の開会あいさつの後、河村建夫全日私幼P連会長があいさつをされ、続いて森喜朗全日私幼P連最高顧問、最後に香川敬全日私幼連会長からあいさつがありました。

来賓祝辞では、安倍晋三内閣総理大臣からご祝辞をいただきました。また、林芳正文部科学大臣、中曽根弘文幼児教育議員連盟会長、馳浩幼児教育議員連盟事務局長からもご祝辞をいただきました。

来賓紹介では、井原巧自由民主党幼児教育議員連盟事務局次長から出席された来賓の国会議員一人ひとりのご紹介が行われました。

最後に、月本喜久全日私幼P連副会長から今大会



河村建夫氏
全日私幼P連会長、
衆議院議員



林芳正氏
文部科学大臣、
参議院議員



中曽根弘文氏
自由民主党幼児教育議員連盟
会長、参議院議員



馳浩氏
自由民主党幼児教育議員連盟
事務局長、衆議院議員



森喜朗氏
全日私幼P連
最高顧問



遠藤利明氏
全日私幼P連副会長、
衆議院議員



山本順三氏
全日私幼P連副会長、
参議院議員



井原巧氏
自由民主党幼児教育議員連盟
事務局次長、参議院議員



香川敬氏
全日私幼連会長

の大会宣言案が読み上げられ、満場一致で採択されました。

山本順三全日私幼P連副会長の閉会のことばで第1部の式典が終了しました。

第1部の式典終了後、こどもがまんなかP R O J E C Tアワード表彰式が行われ、受賞者・団体の代表として山口県・小郡幼稚園に、河村建夫全日私幼P連会長より表彰状とトロフィーが授与されました。

第2部は、ピアノ・広中舞さん、ヴァイオリン・高橋和歌さん、ヴァイオリン・深澤彩さんによるこどもがまんなかクラシックコンサートで幕開けをしました。

最後に記念講演としてプロサッカー指導者の佐々木則夫様より「目標達成へのプロセス」をテーマにお話いただき、盛会のうちに会を終了しました。



▲こどもがまんなかクラシックコンサート



▲佐々木則夫氏 プロサッカー指導者

平成 30 年度・私立幼稚園関係予算について 文部科学省より説明

9月8日、東京・私学会館において全日私幼連の臨時理事会が開催され、59人が出席しました。

北條泰雅副会長から開会の言葉、続いて香川敬会長からのあいさつがあり、会則18条第2項により坂本洋理事（岩手）、岡本壯二理事（岡山）が議長として選出されました。また、石嶋勇理事（栃木）、二井睦理事（三重）が議事録署名人として選任されました。

初めに平成30年度の私立幼稚園関係予算概算要求について文部科学省より行政報告が行われました。

まず、丸山洋司文部科学省高等教育局私学部私学助成課長より平成30年度・私学助成関係予算要求についての説明があり、つづいて先崎卓歩文部科学省初等中等教育局幼児教育課長より幼児教育の振興に関する概算要求について説明がありました。説明の後、各課長の説明に対する質疑応答がありました。

行政報告終了後、議事に入りました。

■審議案件1：国の制度等に関する質問への対応及び有益情報の共有の件

岩田知也専務理事より国の制度等に関する質問の手続き方法や有益情報の共有方法などそれぞれの対応について説明がありました。

■協議案件1：2歳児受け入れの件

小澤俊通副会長より子ども・子育て会議において、全国の私立幼稚園が国の待機児童解消に前向きな姿勢でいるため、2歳児の受け入れについて私立幼稚園が取り組みやすい柔軟な制度を望んでいるとの意



見を提出したと報告がありました。

■報告案件1：幼児教育振興法の件

小澤俊通副会長より幼児教育振興法の概要や基本的施策について報告がありました。

■報告案件2：会務運営報告の件

各委員会の委員長、プロジェクト座長から、会務の進捗状況について報告がありました。

■（公財）全日私幼研究機構からの報告

宮下友美恵教育研究委員長から機構の活動について報告が行われ、8月に開催された第8回幼児教育実践学会の報告がありました。

最後に園尾憲一副会長より、閉会のあいさつがあり臨時理事会は終了しました。

平成 30 年度・私立幼稚園関係予算、 会務運営報告など

9月8日、東京・私学会館において、同日行われる臨時理事会に先立ち全日私幼連常任理事会が開催され、29名が出席しました。澤田豊副会長による開会の言葉、香川敬会長による挨拶の後、議長に小澤俊通副会長、議事録署名人に前田邦光理事と武田正廣理事が選任され、議事に入りました。

■協議案件 1：臨時理事会の開催の件

田中辰実総務委員長より本常任理事会後より臨時理事会を開催する旨の報告がありました。

■協議案件 2：2 歳児の受け入れの件

坪井久也政策委員長より幼稚園における2歳児の受け入れ推進についての報告がありました。

■報告案件 1：幼児教育振興法の件

坪井久也政策委員長より幼児教育振興法の概要や基本的施策について報告がありました。

■報告案件 2：平成 30 年度私立幼稚園関係予算の件

坪井久也政策委員長より私立幼稚園に対する各種補助制度や子育て支援充実等、予算編成への要望について報告がありました。

■報告案件 3：国の制度等に関する質問への対応及び有益情報の共有の件

岩田知也専務理事より国の制度等の質問や有益情



報の共有方針について報告がありました。

■報告案件 4：今後の会務運営の件

各委員会の委員長より委員会活動について報告、内容についての質疑応答が行われました。

■（公財）全日私幼研究機構からの報告：

安家周一（公財）全日私幼研究機構副理事長より第8回幼児教育実践学会の報告がありました。

■その他：

今後の会議の予定について報告がありました。

最後に村山十五副会長の閉会のあいさつで本常任理事会は閉会し、続く臨時理事会にて報告内容が諮られることとなりました。（総務委員長・田中辰実）



**バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！**



くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。



いつもNAVI
「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコム登録商標です。



株式
会社

チャイルド社 インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

人材確保支援アプリ運用に伴う操作方法講習会



9月26日、東京・私学会館にて人材確保支援アプリ運用に伴う操作方法講習会が開催されました。経営研究委員会では、文部科学省が実施する「幼稚園

園の人材確保支援事業」の委託を受け、求人アプリの作成事業を行っておりました。そのアプリの本格稼働に向け、各都道府県団体事務局より66名が講習会に参加しました。

園尾憲一全日私幼連副会長のあいさつにて開会し、続いて尾上正史全日私幼連経営研究委員長より概要説明がありました。操作説明は、アプリの作成会社である株式会社ブラテック代表取締役社長の岩崎正明氏により行われました。操作説明の後、質疑応答の時間が設けられ、尾上正史経営研究委員長のあいさつにて閉会しました。

今後、随時各加盟園にアプリの説明資料が送付される予定になっています。

平成29年度・102条園研究会議

9月28日、東京・私学会館において、全日私幼連の平成29年度・102条園研究会議が開催され、全国から約100人の先生方が出席されました。

はじめに澤田豊全日私幼連副会長より開会のことばがあり、講演に入りました。

主な会議内容は次の通りです。

●講演

演題：「子ども・子育て支援新制度の現状と課題」

講師：大野雅史・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官

●質疑応答

事前に集めた、『子ども・子育て支援新制度』についての一般的な質問と102条に特化した質問について大野雅史氏にお答えいただきました。



●情報交換

私学助成園、宗教法人園、施設型給付園にわかれてグループをつくり、各園の抱える課題や新制度への要望等を共有しました。

最後に溝淵真澄全日私幼連102条園委員長より閉会のあいさつがあり、会議は終了しました。

● 9.15

ECEQコーディネーター更新講習を 東京・私学会館にて開催

9月15日（月）東京・私学会館にてECEQ コー
ディネーター更新講習（東京・関東・神奈川・東海
北陸地区対象）が開催されました。

本講習は^{イーセック}ECEQ = 「公開保育を活用した幼児教
育の質向上システム」についての見識を深めるた
めに平成25年～28年度の公開保育コーディネ
ーター養成講座修了認定者を対象にした更新講習で、
本年度は全国5地区で実施しております。

現在までに北海道地区、東北地区、九州地区の3
箇所で開催しており、9月15日は関東近郊のコー
ディネーター修了認定者を対象に実施されました。

当日は、宮下友美恵（公財）全日私幼研究機構研
究研修委員長を講師として迎え、74名のコーディ
ネーターが参加しました。

更新講習終了後は参加者より質疑応答があり、活



発な意見交換が行われた後、本講習は終了しました。

今後は11月28日（火）大阪にて更新講習を予
定しています。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

平成 30 年度概算要求の概要

幼児教育の振興

私学助成（幼稚園関係）

◎一般補助

1 8 3 億円（前年度予算額 1 8 2 億円／0. 3 億円増・0. 1 %増）

◇園児 1 人あたり単価

+ 1. 2 %増（2 3, 4 5 3 円→2 3, 7 3 4 円）

◎幼稚園特別支援教育経費

6 4 億円（前年度予算額 6 0 億円／4. 6 億円増・7. 8 %増）

◎預かり保育推進事業

3 8 億円（前年度予算額 3 5 億円／3. 7 億円増・1 0. 6 %増）

長時間預かりの単価：5 万円～2 0 万円増

長期休業中等預かりの単価：6 万円～1 5 万円増

◎幼稚園の子育て支援活動の推進

1 1 億円（前年度予算額 1 1 億円／0. 1 億円増・1. 0 %増）

幼稚園就園奨励費補助

◇事項要求（前年度予算額 3 0 9 億円）

※段階的に無償化に向けた取組を進めることとし、対象範囲や内容等については予算編成過程で検討

※事項要求のため、要求額は前年同額。事項要求とは、個別政策の予算要求額を明示せず、項目だけを記載して要求すること

幼稚園における2歳児の円滑な受入れのための調査研究

◇2,000万円（新規）

幼稚園の人材確保支援事業

◇8,600万円（前年度予算額8,600万円）

私立幼稚園の施設整備の充実

◇6億円（前年度予算額5億円／1億円アップ・20%アップ）

認定こども園等への財政支援

◇211億円（前年度予算額41億円／170億円増・414.6%アップ）

※端数処理のためアップ率や合計が一致しないものがある。

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税

B5判 72ページ

2017年11月号の主な内容

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは？ 新3法令改訂（定）のポイントの1つとして挙げられる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」。この10の姿を現場ではどのように捉え、実践していけばよいでしょうか。3園の事例にそのヒントが見えてきます。
- 保育ナビスペシャル対談 動物や自然をモチーフにした木の造形作品を、独自の世界観で生み出す松村太三郎さん。34年前に松村さんが開村した日本で最初の絵本専門図書館「えほん村」を訪ね、お話をうかがいました。
- 「遊びの育ち」を見つめる 一幼児期のごっこ遊びを中心に、遊び込むことによって変容し、異なる遊びを生み出す「ごっこ遊び」は「分化のタネ」のようだとされます。園でよくみられる2つの分化を押さえます。



ISBN978-4-577-81416-1

791

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フーベル館**

幼児教育の無償化に向けた取組の段階的推進【事項要求】 (幼稚園就園奨励費補助)

(前年度予算額 309億円)
子ども・子育て支援新制度移行分を含めた所要額: 334億円

平成30年度要求額

事項要求

○幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、すべての子供に質の高い幼児教育を保障するため、幼児教育に係る保護者負担を軽減し、無償化に段階的に取り組む。

○「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議」(平成29年7月31日開催)で取りまとめられた方針等を踏まえ、平成29年度については、低所得の多子世帯等の保護者負担軽減を図り、幼児教育無償化に向けた取組を推進。

※幼稚園就園奨励費補助 (補助率: 1/3以内)

幼児教育の振興を図る観点から、保護者の所得状況に応じた経済的負担の軽減等を図る「幼稚園就園奨励事業」を実施している地方公共団体に対し国が所要経費の一部を補助する。

<参考1> 幼児教育無償化に向けた平成29年度の取組

1. 市町村民税非課税世帯第2子の無償化

◆市町村民税非課税世帯の第2子の保護者負担を無償にする。

<保護者負担額>

第2子	H28:月額 1,500円	→	H29:0円 (▲1,500円)
	年額 18,000円	→	0円 (▲18,000円)

2. 市町村民税所得割課税額77,100円以下世帯の保護者負担軽減

◆ひとり親世帯等の保護者負担の軽減措置を更に拡充する。

<保護者負担額>	第1子	H28:月額 7,550円	→	H29:月額 3,000円 (▲4,550円)
		年額 91,000円	→	年額 36,000円 (▲55,000円)

◆その他の世帯の保護者負担を以下のとおり軽減する。

<保護者負担額>	第1子	H28:月額 16,100円	→	H29:月額 14,100円 (▲2,000円)
		年額192,800円	→	年額168,800円 (▲24,000円)
	第2子	H28:月額 8,050円	→	H29:月額 7,050円 (▲1,000円)
		年額 97,000円	→	年額 85,000円 (▲12,000円)

<参考2> 国庫補助限度額と保護者負担の現状等 (平成29年度)

階 層 区 分	補 助 単 価		
	第1子	第2子	第3子以降
第Ⅰ階層 生活保護世帯	308,000円 (0円)		
第Ⅱ階層 市町村民税非課税世帯等 (年収約270万円未満相当)	272,000円 (3,000円)	308,000円 (0円)	
ひとり親世帯等の特例	308,000円 (0円)		
第Ⅲ階層 市町村民税所得割課税額77,100円以下の世帯 (年収約360万円未満相当)	139,200円 (14,100円)	223,000円 (7,050円)	308,000円 (0円)
ひとり親世帯等の特例	272,000円 (3,000円)	308,000円 (0円)	
第Ⅳ階層 市町村民税所得割課税額211,200円以下の世帯 (年収約680万円未満相当)	62,200円 (20,500円)	185,000円 (10,250円)	308,000円 (0円)
第Ⅴ階層 市町村民税所得割課税額221,201円以上の世帯 (年収約680万円以上)	0円 (25,700円)	154,000円 (12,850円)	308,000円 (0円)

※国が対象とする補助の限度額。国は、限度額の範囲内で市町村事業を補助する(年額)。上限額の308,000円は全国の私立幼稚園の平均保育料等。()内の金額は、保育料等が308,000円である場合に、就園奨励費支給後に保護者が実際に負担する金額(月額)。

私立高等学校等経常費助成費補助金 幼稚園分の概要

平成30年度要求・要望額 296億円
(平成29年度予算額 287億円)

29年度 30年度要求・要望
○ 一般補助 182億円 → 183億円(+0.3億円)

- ・園児一人あたりの単価 : 1.2%増
- ・幼稚園教員の人材確保の取組に対する支援を引き続き実施

○ 特別補助 105億円 → 113億円(+8.4億円)

1. 幼稚園等特別支援教育経費

60億円 → 64億円(+4.6億円)

都道府県が、障害のある幼児が2人以上就園している私立の幼稚園又は幼保連携型認定こども園に特別な助成を行う場合、国が都道府県に対してその助成額の一部を補助。

- ・対象園児数：約1千人増

2. 教育改革推進特別経費（子育て支援推進経費）

45億円 → 49億円(+3.8億円)

・預かり保育推進事業

35億円 → 38億円(+3.7億円)

幼稚園の教育時間終了後や休業日に「預かり保育」を実施する私立の幼稚園等に特別な助成措置を講じる都道府県に対して、国がその助成額の1/2以内を補助。

- ・長時間預かりに係る加算単価の増：5万円～20万円
- ・長期休業日等預かりに係る加算単価の増：6万円～15万円

・幼稚園の子育て支援活動の推進

11億円 → 11億円(+0.1億円)

教育機能又は施設を広く地域に開放することを積極的に推進する私立の幼稚園等に特別な助成措置を講じる都道府県に対して、国がその助成額の1/2以内を補助。

平成29年度 地区教研大会概要

北海道地区 教育研究大会

北海道・札幌市／7月31日・8月1日

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

本年度も北海道私立幼稚園教育研究大会を7月31日（月）から8月1日（火）の2日間にわたり開催いたしました。

北海道における教育研究大会は、昭和33年に第1回が約230名参加のもと札幌市で開催され、その後、年1回、道内各地域の持ち回りで開催するようになり、回を重ね本年度は第60回目の節目の大会となりました。

その間、年1回の開催であったものを、より多くの教職員が参加し研鑽を重ねられるよう、平成19年度から札幌市で開催される全体会と道内を5ブロック（札幌、道南、道央、道北、道東）に分けたブロック大会という形に変え、現在は合計で約4,000名を超える参加者となっております。

さて、道内5ブロックで行われるブロック大会の皮切りとして行われる全体会である本大会は、昨年度から2年間にわたる（公財）全日私幼研究機構の教育研究課題である、「人生のスタートにこそ良質な教育を」～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～の大会テーマのもと、約520名が参加しました。

第1日目は開会式の後、記念講演の講師として兵庫教育大学大学院准教授の鈴木正敏先生をお招きし、「主体的・対話的で深い学びを支える～未来を創る子どもたちのために～」との演題で、30年度から実施される新幼稚園教育要領を踏まえ、これまで培ってきた保育を継承しつつ、育てるべき資質能力とアクティブラーニングを意識した教育方法、そして、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿など、新たな視点で子どもたちの育ちを支えていく大切さについて事例を交えてご講演いただきました。

続く2日目は5つの分科会を設定しました。分科

会の設定においては、保育者の課題意識が高い内容を中心に、バランスも考慮し、実践的且つより具体的な事例等を用いながら学びを深められるような構成にしています。第1分科会「特別支援」、第2分科会「乳児・3歳未満児保育」、第3分科会「遊びの環境構成」、第4分科会「保育実践」、第5分科会「人材育成」の各テーマのもと、大変実りある研修となりました。

併せて、本年度も幼児教育実践学会でも行われているポスター発表を行い、あいにく本年度の参加は1園でしたが、実践されている教育について、多くの参加者と活発なやりとりがされていました。

また、北海道の研修会は大変参加者が多いことから、本年度初めてNFCタグを使い、読み取り機にタッチするだけで受付ができるシステムを試験的に導入しました。運営側が受付名簿を使い、手作業で行ってきた受付を自動化することにより、受付にかかる時間が大幅に短縮でき、参加者からも大変好評で利便性が向上できた他、運営側の作業も効率化でき、しっかりと研修会の対応にあたることができるようになりました。

新制度や次々と実施される待機児童対策など、ますます幼児教育・保育を取り巻く環境が大きく変化しており、幼児教育・保育への期待や要望が高まっています。これらの役割を果たしていくためには、教育者・保育者としての資質・能力もしっかりと高めていくことがより一層重要となってきました。

これからも幼児教育をしっかりと中心に据えながら、研修会を実施していきたいと思っております。

（（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究副委員長、札幌市・札幌ゆたか幼稚園／丸谷雄輔）

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問いつづけよう～

東京地区における研究大会は18回を迎え、7月24日の全体会是有楽町のよみうりホールにて、25日の分科会はアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて実施しました。両日とも約1000名の参加があり、熱気に満ちた研究発表と研修の場となりました。

初日の全体会は、開会式にて永年勤続表彰から、基調講演、対談、記念講演と進みました。

基調講演は山下文一先生（松陰大学教授）から、「新幼稚園教育要領」～主な改訂内容～というテーマでご講演をいただきました。山下先生は中央教育審議会・幼児教育部会において、この度の改訂に直接に関わられたご経験から、具体的にお話くださるとともに、幼児教育をめぐる今日的な話題についても提供いただきました。

対談は「幼稚園・こども園の『砂場』から幼児教育の質の向上を考える」～公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の取り組みから～をテーマとして、この取り組みに研究者として参加されている箕輪潤子先生（武蔵野大学准教授）をお招きし、研究の事例を提供している加藤篤彦先生（武蔵野東第一・第二幼稚園）との対談形式をとりました。「砂場」は、どの園にもある身近な環境です。砂場で遊ぶ幼児の姿から、幼稚園教育要領の改訂の理解にもつながる育ちについて考えることができました。

記念講演は和泉淳子先生（狂言 和泉流宗家）に、「狂言は笑いの芸術でござる！」～初の女性狂言師として～というテーマで、ご講演いただきました。「言葉」と「しぐさ」は教わるものでなく、師匠と定められた回数での対面で弟子が集中して身に写していくものというお話が印象的でした。

2日目はアルカディア市ヶ谷（私学会館）に会場を移し、9つの分科会と昼食時間帯を中心としたポスター発表を実施しました。どの分科会も主体的で

対話的な深い学びの時間になりましたが、ここでは、テーマと講師名をご紹介します。

1. 園長主幹（対談）～戦後70年の総括と新しい時代に向けた園経営～青木久子先生（青木幼児教育研究所主宰）平山許江先生（青木幼児教育研究所）
2. 親子の育ち（2歳児）～親子の育ち・2才児の心の育ちを考える～岡村由紀子先生（静岡福祉大学特任講師）
3. 園内研修～仲間と一緒に子どもを見つめ理解を深めよう～安達譲先生（認定こども園せんりひじり幼稚園長）
4. 保育環境～子どもの視点で見直し、工夫しよう！！～小林紀子先生（青山学院大学教授）
5. 幼小接続～幼児教育と小学校教育が互いを理解し合い、子どもたちの育ちをつなげていくために～久留島太郎先生（植草学園短期大学准教授）
6. 気になる子の理解と保護者支援～インクルーシブとは何かを語りましょう～三井菜摘先生（筑波大学大学院心理発達教育相談員）
7. 幼児理解と記録～子どもの姿を深くとらえるために、記録のとり方・活かし方～入江礼子先生（共立女子大学教授）
8. 預かり保育～子どもたちにとって有益な預かり保育のあり方とは～浅見均先生（青山学院女子短期大学教授）
9. 表現の営みを、活動のプロセスを、実りあるものとするために～自己目的性と伝達性の見地から幼児期の表現活動のあり方を検討する～花輪充先生（東京家政大学教授）

ポスター発表は12園からエントリーをいただき、活気に満ちた意見交換がされました。今年度からポスター発表はひとつの分科会と同様に、企画運営を教育研究委員が専任で担当することによって、エントリー数の増加や当日の発表の充実の手ごたえが得られましたこともお伝えします。

（（公社）東京都私立幼稚園教育研修会理事長、武蔵野市・武蔵野東第一・第二幼稚園園長／加藤篤彦）

大会テーマ 「今こそ育てよう未来を生きる力！」

平成29年度の東海・北陸地区教研大会は7月27日（木）、28日（金）の両日、福井市にて開催されました。施行後2年が経過した子ども・子育て支援新制度や、平成30年4月改訂の幼稚園教育要領など、大きな変革期の中での開催にあたり、新幼稚園教育要領についての理解や、新制度について多面的に考えることができる研修、また、2年継続テーマの分科会に加え、公開保育実施への取り組みや、幼児教育の質の向上に向けた園の組織作りなど、私たちに求められる今日的な課題にも取り組む研究会を企画致しました。

マリンバ・パーカッションデュオ「Pulse Duo」による、繊細で優しい音色のハーモニーで幕を開けたウェルカムステージ、後半には福井県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会合唱部・ダンス部も加わり、マリンバ演奏との初共演はまさに福井県ならではのお・も・て・な・しをお楽しみいただきました。

開会式・式典のあと、基調講演は「これからの幼児教育とは」の演題で、白梅学園大学・無藤隆先生にご講演いただき、幼稚園・こども園・保育所がともに質を高めていくこと、小学校入学以降までの発達と学びの連続性を重視すること、そのために保育者の研修をキャリアの時期ごとに受けられるように質・量ともに充実させること、そしてその学びを園の保育の向上に活かす仕組みを構築していくことなど、よりよい保育に向けた多くのことを学びました。

基調講演に引き続きで行われた座談会では、那須信樹先生（東京家政大学教授）、矢藤誠慈郎先生（岡崎女子大学教授）、北野幸子先生（神戸大学大学院准教授）の3人の先生が加わり、無藤先生とともに、それぞれの視点で幼児教育を本音で語っていただきました。台本の無い本音トーク、新教育要領の

「文字」のウラに込められた想いや、他ではなかなか聞けない内容から、未来への目には見えない大切なメッセージを感じ取る時間となりました。

一日目全体会の締めくくりは、俳優の杉浦太陽さんによるトークショー。聞き手として当協会選抜の同世代の先生2人も加わり、今まさに子育て世代である同世代の生トークや、会場参加者から直接質問できる「聞いてみタイヨウ」タイムなど、軽快で飾らないトーク力とその格好よさに、会場全体が黄色い歓声に包まれました。

二日目は12のテーマとPTA大会の13会場に分かれて分科会が行われ、それぞれの会場で研究協議が行われました。①「多様な子どもの受容とクラスの育ちを考える」②「自然と触れ合う遊びの体験や遊びの創造」③「0・1・2歳児（乳児期）の育ちと3・4・5歳児（幼児）の生活と育ち」④「学びの芽生えを培う保育」⑤「気になる子や障がいのある子の保育実践と家庭支援について」⑥「保育の記録と保育の振り返り」⑦「一人一人を生かす集団保育のあり方」⑧「遊びの意味と育ちへの繋がり」⑨「共感し合える保育者と保護者・地域社会との関係づくり」⑩「プロセスの質を重視した保育」⑪「保育の質向上を目指した公開保育」⑫「新たな時代の教育と組織マネジメントを考える」⑬PTA大会「子育てって かなり さいこう♪」

規模の小さい団体としてオール福井で運営した福井大会が、未来を生きる子どもたちの、健やかな今の成長の一助につながることを願っています。講師の先生方、企画運営をしてくださった先生方、事務局の皆様、そして参加してくださった先生方、有難うございました。

（福井県私立幼稚園・認定こども園協会事務局次長、福井市・みどりこども園／松原直俊）

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

本年度で第32回目となる四国地区教育研究大会を、8月3日(木)から4日(金)の2日間にかけて、造船とタオルで有名な愛媛県今治市の今治国際ホテルと地場産業振興センターの2会場にて開催いたしました。昨年度から2年間にわたる(公財)全日私幼研究機構の教育研究課題である「人生のスタートにこそ良質な教育を」～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～の大会テーマのもと、非常に蒸し暑い中、四国四県から約700人が参加し開催しました。並行して教員免許状更新講習を開催し、44名が参加しました。

第一日目は香川敬全日私幼連会長にもご臨席頂いた開会式の後、記念講演の講師として世界唯一のちくわ笛奏者であり、また桃太郎のからくり博物館館長でもある住宅正人先生をお招きし「桃太郎伝説と伝承文化」～伝承民謡・伝説とちくわ笛～というテーマでお話いただきました。講演参加者全員にちくわが配られ、住宅先生の指導のもと皆でちくわ笛にチャレンジしましたが、音が空回りするばかりで悪戦苦闘。やっとの思いで音が出た時の嬉しさからちくわという身近なもので音を楽しむという「音楽」の本質を学んだ気がします。

記念講演後、二日間にわたり、質の高い幼児期の教育が求められる現代だからこそ重要となる乳児期から幼児期にかけての育ちを意識した6つの分科会が行われました。

第一分科会では「愛されて育つ子ども」をテーマに動植物を育てる事例から子どもたちが命の尊さを学ぶことや、日々の関係作り(愛情を持って接していくこと)が子どもの成長に繋がることを皆で共有しました。

第二分科会では「子どもと共に育つ保育者」をテーマに事例発表後、子どもの成長のために保育者とし

て何が出来るかをグループで話し合いました。子どもの心や遊びをつなぐのが保育者の役目でありそのためには常に保育者自身が心に余裕を持ち資質向上に努めなければいけないことを改めて感じました。

第三分科会では「教育・保育理論」をテーマに子どもにとって「遊び」は様々な学びを生み出す重要なものであり、興味の広がり、自己調整する力、気づきにつながるものであることを学びました。

第四分科会では「子ども理解」をテーマにどのようにすれば子どもとの信頼関係が構築することが出来るか、そして子どもとの信頼関係がより良い保育につながることを学びました。

第五分科会では「保育実践」をテーマに幼児の遊びにどのような意味があるのか、子どもの育ちにおける遊びの重要性を学び、子どもの遊びに対し保育者はどのように関与していくのが良いのか皆で話し合いを行いました。

第六分科会では「子どもが育つ家庭や地域」をテーマに核家族化や少子化の進行等近年の社会問題に目を向けました。より薄れつつある地域とのつながりが実は家庭で習得することが難しくなった人と関わる力を身につける上で非常に重要であるということを知りました。

最後になりましたが、それぞれの講座での発表・助言の先生方、企画運営をしてくださった教育研究委員会の先生方、事務局の皆様、そして何より前向きに参加してくださった先生方に、この紙面をお借りして深く感謝申し上げます。幼児教育・保育を取り巻く環境が大きく変化している現代ですが、今後も幼児教育を中心に据えて歩んでいきたいと思えます。

(一財)愛媛県私立幼稚園協会調査広報委員長、松山市・番長幼稚園、桃山幼稚園／新野徹治)

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問いつづけよう～

九州地区私立幼稚園第33回教育研究大会が7月31日、8月1日の日程で福岡県にて開催されました。1,562名の参加者を迎えて盛大に開催され、暑い暑い二日間となりました。

1日目は、福岡アクロスシンフォニーホールにて開会式を行ない、その後の基調講演では、お茶の水女子大学名誉教授内田伸子先生に「子どもの創造的想像力を育む保育者の役割～新幼稚園教育要領のもとで、どの子ども伸びる援助を考える～」の演題でご講演いただきました。『想像力＝生きる力である。子ども中心の保育で、遊びの楽しさを体験できる環境と保育者の良質な働きかけがあれば、想像力が育ち豊かな語彙力に繋がる。また家庭の躰も共有型躰と強制型躰では学力の差が出てくる』など長年の研究データを基に、また新教育要領を踏まえてご指示下さいました。

次は、精華女子高等学校吹奏楽部のステージドリル演奏。全国に誇る素晴らしい演奏に心酔しながら、吹奏楽に打ち込む女子高校生たちの真摯な姿にも感動致しました。

次の記念講演は、北九州市出身のバラエティタレントで歌手のつるの剛士さんの子育てトークショー。つるのさんは、現在二男三女の父親で、育休を取られたお父さんとしてメディアで騒がれ、“イクメン”の走りになりましたが、意外にもご本人はイクメンと言われるのがお嫌いとのこと。「夫婦力を合わせて子育てするのは当たり前。育休を取って子育てをしたからこそ、楽しさや大変さを実感できた」等、ご家族のエピソードを交えながらの気さくな語り口に会場は終始にぎやかな雰囲気、笑いに包まれていました。

2日目は、各県から研究課題の発表が12の分科会に分かれてあり、それぞれのテーマに基づいた研

究発表がなされ、参加者の熱心な協議を経て各講師にまとめて頂きました。

第13会場は新人研修(117名)で幼児教育専門家・子育てアドバイザーの熊丸みつ子先生から前半は「今を生きる子どもたちへ伝えたいこと～保育者として大人として～」後半は実技指導「楽しく遊んで子どもを知ろう!」のテーマで講話があり、講師のユーモラスな語り口調と楽しい遊びやゲームをして笑いの絶えない、学びも深い研修会となりました。

第14会場は設置者・園長研修会(156名)で玉川大学の教授で四季の森幼稚園園長の若月芳浩先生から「保育の質的向上のための園長の役割～教育・保育の哲学を実践に具現化するために～」の演題でご講演がありました。「教育保育には哲学を持ってビジョンを掲げる必要があること。園チームをつくっていくこと。そして失敗をしないチームではなく、失敗を受け止められるチーム作りをしていくことが質向上につながる」と園長としての在り方を労務管理・人材確保・保育・教育・広い観点からお話いただきました。以上の分科会と研修会は12時に閉会致しました。

第15会場は、教員免許状更新講習(202名)午前、九州龍谷短期大学准教授の鬼塚良太郎先生から「気になる子どもと保護者への対応」午後、長崎大学准教授の脇信明先生から「人と関わる力が子どもを育てる～子ども相互で育ちあう保育とは」午後4時試験終了後閉会となりました。

ご協力頂きました運営委員会・実行委員会・事務局の皆様へこの紙面を借りて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

((一社)福岡県私立幼稚園振興協会教育研究委員長、北九州市・霧ヶ丘幼稚園／淵和子)

日本私立学校振興・共済事業団の融資

幼稚園の経営者のみなさん、こんなお悩みはありませんか？



園舎が古くなったので、安全性を考えて建て替えたい

- 平成29年度 耐震に関する利子助成制度です。ぜひご活用ください！

対 象

- 旧耐震基準の園舎の建て替え
耐震化促進のための補助金の対象となる改築事業

耐震改築利子助成

〔私立学校施設整備費補助金〕
〔安心こども基金等〕

- 耐震補強工事・非構造部材の耐震対策事業
防災（耐震）機能強化のための補助金の対象となる改修事業

防災（地震）対策費（耐震改修利子助成）

事業団の融資

この融資制度は
文部科学省から私立学校施設高度化
推進事業費補助（利子助成）を受ける
ことができますので

全借り入れ期間
実質0.5%の
固定金利です。

※融資金利が0.5%以下の場合は
利子助成は行われません



融資上限＝補助対象事業費－補助金

※ 補助金の対象となっている事業に
対してご利用いただけます。



給食室を増築したいけど資金が…



- 通常の融資もご相談ください。

低利・固定金利
借入期間はなんと！
最長20年

返済方法は
利息負担の少ない
元金均等返済

融資金利表

平成29年9月13日現在

融 資 費 目	返 済 期 間		
	20年以内 (うち据置2年)	10年以内 (据置年数含む)	6年以内 (据置年数含む)
【一般施設費】 園舎・遊戯室等の建築事業等 並びに園地の買収事業等	年% 0.60	年% 0.31	年% 0.41
【教育環境整備費】 校教具並びに通園バスの購入等	—	0.31	5年6か月以内 (うち据置6か月) 0.31

※融資金利は毎月の金利情勢により変更することがあります。

※上記費目以外にも災害復旧事業、公害対策事業等が対象となります。

日本私立学校振興・共済事業団

融資部 融資課

〒102-8145 千代田区富士見1-10-12

☎ 03 (3230) 7862～7867

✉ yushi@shigaku.go.jp

私幼時報では、平成 29 年 9 月号から平成 30 年 3 月号の 7 回にわたり、平成 29 年 3 月 12 日に開催された 2016 年度・発達保育実践政策学センター（Cedep）公開シンポジウム「乳幼児期からの縦断研究：幸せな人生のために何が必要か」の内容を報告します。

今号は 3 回に亘るロンドン大学・イングリッド＝ショーン博士の第 3 回目の講演報告になります。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部平林祥先生（大阪・ひかり幼稚園）が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。

イギリス・ロンドン大学 イングリッド＝ショーン博士／講演概要

人生初期のスキルがその後の成果にもたらす影響

【データ分析のまとめ】

ここからはまとめです。幼児期の社会的・情緒的スキルは、認知的スキルとは独立して（それぞれ独自に）、多様な将来のアウトカムに影響することが明らかになりました。自己統制スキルは、多くの領域に大きな影響を及ぼし、特に将来の「メンタルヘルス」と「身体的健康」にとって重要です。また、言語的スキルと視覚運動的スキルは、将来の「メンタルヘルス」や「身体的健康」、「労働市場における状況」に重要な影響を及ぼすことが明らかになりました。これらのスキルを単独で獲得するのではなく、組み合わせて獲得することが、複数の領域に亘って

良いアウトカムを得る上で決定的に重要そうである、ということが示唆されます。

ただ、このようなメタ分析は、研究当時の関心と測定技術により、利用できるデータに制約を受けます。例えば、モチベーションや計画する能力、忍耐力などは、将来のアウトカムに重要な影響を与えるスキルであることが明らかになりましたが、過去の研究では研究対象になっていませんでした。

教訓（１）唯一の特効薬は存在しない

幼児期のスキルと将来のアウトカムとの関係を検討したときに、『ただ一つの特効薬は存在しない』



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



ジャクエツ

ということが分かりました。何か1つのコンピテンスを獲得さえしていれば、人生が全てうまくいく、ということはないのです。多様なスキルを組み合わせで獲得すること、そして、その組み合わせには認知的スキルと社会情緒的スキルの両方が含まれていることが重要なのです。例えば、認知的スキルと自己統制スキルを獲得していることによる〔学業的達成〕や〔身体的健康〕、〔精神的ウェルビーイング〕といったアウトカムは、2つのスキルの相互作用によって説明されます。また、スキルの組み合わせによる波及効果で、何か1つのスキルが十分に強ければ、そのスキルと組み合わせさせて効果を発揮する別のスキルの弱さを補うことができる（相互補完的）という関係を持つこともあります。

これらの結果から幼児教育の現場が学ぶべきことは、複数のスキルの相互作用や相互補完的な関係を踏まえて、認知的コンピテンスを高めていくことだけでなく、社会情緒的コンピテンスを高めることも重視しなければいけないということです。

教訓（2）評価（アセスメント）と概念・専門用語の不統一、新たな重要指標の発見

これまでの『評価』は、例えば「保護者が子どもの行動を観察して、その結果を報告してくれる」といった方法で行われてきましたが、現在では様々な

新しい評価手法が開発されつつあります。例えば、コンピューターを使って、子どもがどのように物事を観察しているのかという情報を得たり、子どもの視線を追うことができます。さらに、子どもの生理学的反応を捕捉することもできるようになりました。そういった直接的な評価手法を開発していくのと同時に、従来からの観察や保護者からの報告など様々な評価手法も含めて、色々な視点から検討していかなければいけません。

新しい評価手法を使って研究を進めていく前に、概念の定義を統一していく必要があります。【自己制御】とは何なのか、【コンタクト】とは何なのか、統一見解を出していく必要があります。同様に、多くの構成概念が提唱され、検証されるなかで、専門用語を統一することも重要になります。例えば、【外向性】という用語は【社交性】と同じ内容を指すこともあります。同じ内容であれば同じ用語で示すことで無用の混乱を防ぐことができます。子どもたちの様々なスキルを整理し分類していき、それらを国際的に調和の取れたかたちで使っていくことが、今後重要になると考えます。そうすることで、同じ文脈・同じ意味を共有した上でコミュニケーションを取ることができます。

さらに、幼児期のコンピテンスを捉える新しい指標についても検討する必要があります。現在の研究では、【自己認知】や【自己制御】が重視されてい

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

積極的に研修に参加し、その履歴を
研修ハンドブックに記録しておきましょう。

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

新版 研修ハンドブック

4103501 **756円**（本体 700円）

- B6判
- 120ページ
- ビニールカバー入り

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー事業本部
TEL03-3262-5128



ますが、まだ測定方法が確立していない領域や分野のスキルで、子どもたちの発達上重要なスキルもあるはず。国際的な共同研究や、実際に子どもが育つ保育の現場にいる実践者から情報を得ることで、子どもたちの発達に重要な新しいスキルを探り、体系化していく必要もあります。

教訓（３）スキルの発達の文脈とプロセスを理解する

さらに、スキルが発達していく文脈とプロセスをよりよく理解しなければならないことも明らかになりました。

子どもたちがどういった環境で育つのか、すなわち、子どもたちがスキルを発達させる文脈は、大きな意味を持ちます。例えば、恵まれない家庭で育った子どもたちは、認知的スキルと社会情緒的スキルのレベルが低くなる傾向があります。また、子どもたちが恵まれない地域に住んでいる場合に、あるいは、1つの家にあまりにたくさんの人が一緒に住んでいる状況も、子どもたちのスキルの発達に悪影響を及ぼすことが分かっています。

もう一つ分かってきたことは、出生時の体重や乳幼児期における生理学的・生物学的発達が、子どもたちの発達に大きな役割を果たすことです。認知的スキル・社会情緒的スキルにばかり注目して、身体

的発達の重要性を過小評価してはならないということです。子どもたちは、幼い頃から十分に運動できる環境にあるでしょうか。

また、スキルの発達には、それぞれ重要な期間があり、また、スキルが発達するスピードもそれぞれ異なります。生理学的スキルは、言語的スキルや社会的スキルよりも早い時期に発達します。一方で、認知スキルがきちんと完成されたと言えるのは成人以降で、かなりの時間がかかります。教育者は、様々なスキルがそれぞれ異なる時期・速度で発達していくことをきちんと認識してはじめて、自分たちが持つ知見や洞察などを反映させて、子どもたちが一定の情緒的スキルや運動スキルを合わせて獲得できるように支援することが可能になります。

保育政策への示唆（１）発達への焦点化

スキルが発達する時期や速度が異なるのと同じように、幼児教育政策・保育政策で焦点を合わせる内容は時期によって異なります。例えば、出生前後には、生物学的リスクを重視して、健康状態のスクリーニングをきちんと行ったり、親のメンタルヘルスの状況を確認したり、子どもたちが安全な環境に住んでいるか、子どもたちの生命がきちんと保護されているかを確認する必要があります。それらの政策をとることで、定期的な健康診断が大きな意味を持つ



ポット 10周年 創刊10周年 さいのぼりランド2017

チャイルドブックの月刊保育雑誌

ポット

価格 本体 1,000円 + 税

好評発売中！

チャイルド本社

保育に役立つ アイデア満載！

行事

遊び

食育

0・1・2歳児

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

ポットは毎号
CD-ROM付き！

てきますし、それらを通じて子どもたちの生理学的・生物学的な発達を改善することが可能だと考えられます。

乳幼児期には、質の高い保育施設を利用できる（アクセスがある）ことがとても重要です。個々の保育施設がそれぞれに質の高い保育を提供できるように努めることは当然必要ですが、その一方で忘れてはならないのは、脆弱な家庭は、質の高い保育施設へのアクセスがなかなか無いということです。より恵まれた家庭の方が質の高い保育施設にアクセスしやすいという研究結果や、脆弱な家庭のうち質の高い保育施設にアクセスできているのは約 40 パーセントであるという研究結果があります。アクセスの無さには、色々な理由があります。脆弱な世帯が住んでいる地域には高い質を提供する保育施設がそもそもない、あるいは、交通手段がない、という場合。また、そうした質の高い保育施設に入る適格性がないのではないか、受け入れられないのではないか、という心配からアクセス出来ない人もいます。それに加えて、他の人に自分の子どもを育てさせたくない、という感情を持つ人たちもいます。さらに、質の高い保育施設は、サービスを有料で提供しているところが多いため、お金を払ってまで子どもを預けられないという場合もあります。しかし、脆弱性にさらされた家庭ほど、よりケアが必要であるということを忘れてはいけません。

また、乳幼児期には、親が愛情をもって子どもの育ちを支える育児ができるように、親の役割を果たすための親自身の教育も重要になります。親が子どもに本を読み聞かせたり、読む本を選びに図書館に連れて行ったり、公園に連れて行って遊びや運動の機会を提供することは、身体的・認知的・社会情緒的スキルを家庭でも発達させる上で重要です。

就学後も、子どもたちに必要なケアというのは、就学前の段階と大きく変わりません。脆弱な家庭の子どもには、質の高い教育や支援を学校で提供してだけでなく、住んでいる地域住民からも肯定的な支援を得られる環境を作り出し、地域共同体全体で子どもを育てていく、という姿勢が重要になります。それを行う前提として、子どもたちが安心感をもって安全に地域で育っていけることも重要です。さまざまな課題に直面したときに周りの友人たちに頼って一緒に解決に向けて取り組むことができる環境も重要になります。

保育政策への示唆（２）体系的・統合的なアプローチ

幼児教育政策・保育政策に関して、もう１つ重要なことは、体系的そして統合的なアプローチを作り出し、それを実施していくことです。すなわち、子どもの身体的・健康的な発達を促すために、社会に

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田 2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化！

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。



**ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画！

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

おける様々なサービスが連携していくことが重要になります。必要に応じて、両親のメンタルヘルスをケアしたり、効果的な育児ができるように親が学習する機会を設けたり、家庭に本を提供して育児に役立ててもらったり。場合によっては、保護者が専門家に育児相談をしたり、他の保護者と話し合うことができる場作りも必要になるでしょう。

教育学的観点からは、子どもの全人的な発達を促すために、教育者は子どものコンピテンスの発達のあり方を把握し、それぞれのコンピテンスが互いをどのように補完するのかを理解しなければなりません。その理解に基づき、子どもたちが時間をかけて一つひとつのスキルを学んでいけるように教育的枠組みを作っていく必要があります。その際、認知スキルだけでなく、その他のスキルも包括的に学習できる環境作りが重要です。

また、幼児期の学習は、生涯学習につながっていくことを忘れてはいけません。幼児期から主体的に学びに関与していくことで、自分が獲得していく知識や技能が、1つの領域から別の領域につながっていくという継続性に、子どもたち自身が気付けるような環境を築く必要があります。幼児期における教育は、長期的な視点を持って行い、子どもたち自身が主体的に学ぶようにすることで、持続可能かつ生涯にわたるものとなるようにしていくことが大切です。そして家庭の中でも教育の足場を築いていき、発達の様々なフェーズの中でそれを活かして生きていくのです。

どうもありがとうございました。

(大阪府・ひかり幼稚園／平林祥)

私学研修福祉会

海外研修員募集

12月5日締切

一般財団法人私学研修福祉会では、平成30年度の海外研修員の募集を行なっています。

●申込資格：全日本私立幼稚園連合会加盟の幼稚園及び認定こども園の専任教員又は専任職員で、現在の勤務園に継続して2年以上在職の方（原則として50歳未満の方で、2週間以上の期間研修可能の方）●助成対象経費：日本との往復及び外国内での移動にかかる航空賃、船賃の実費及び滞在費●助成金：助成対象経費の50%以内（平成31年3月末の精算）●申込締切：12月5日必着●申込：同財団ホームページで募集要項・申込書などをダウンロードし、必要事項記入のうえ理事長、学園長の推薦を受けた後、私学研修福祉会に提出。●研修員決定時期：研修内容等を審査のうえ、平成30年3月末ごろに決定予定。
▼一般財団法人私学研修福祉会ホームページ
<http://www.skf.or.jp/kensyu/>

PTAしんぶん ぜひご活用ください

「全日私幼連 PTA しんぶん」は「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」としての役割を果たしています。また、「人生のスタートにこそ良質な教育を」にキャッチコピーをリニューアルし、内容の更なる充実を図っています。

PTA しんぶんのご購読を希望される園は、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構までお問い合わせください。

☎ 03-3237-1957 (公財)全日私幼研究機構・調査広報委員会

30年度予算要望にあたって

『子ども子育て支援新制度』は今年で3年目を迎えましたが、県下660園中、新制度移行園が180園にとどまっているのが現状です。人口の減少や母親の就労などにより毎年園児数が2,000～3,000人減少、『子育て安心プラン』による待機児童解消策としての2歳児の受入れなど、様々な課題への対応が求められています。

こうした中、平成30年度の県への予算要望にあたり、各政党や県当局に対し予算要望書を提出しました。本県では、経常費補助金（一般補助）の増額を要望の第一に掲げています。今年度も園児一人当たり単価前年度対比7,693円と大幅な増額となりましたが、さらに国基準単価に近づけるよう強く要望したところです。これに次いで、特別支援教育費補助、預かり保育推進費、地域開放推進費の増額など、幼稚園の担っている様々な教育活動等への支援について要望しました。また、年々教員の確保が困難となっていることから、既卒者に新卒者も加えた「就職セミナー」の開催支援を要望したほか、人材の確保に向けた新規要望として、新制度移行園と私学助成園間での教職員の待遇の格差が増大しないよう、私学助成園への早急な処遇改善策の実施を要望したところです。

新制度園からの要望としては、キャリアアップ研修の充実、2号・3号子どもの利用調整制度の改善についても要望をしています。

幼児教育の振興と幼稚園経営の改善に向けて、今後も国・県そして行政の動きには十分に注視し、迅速な対応ができるよう情報収集に努めていきたいと考えています。

（（公社）神奈川県私立幼稚園連合会振興部長、横浜市・認定こども園はらのご原幼稚園／石井和則）

教員養成校に出向いての就職説明会

平成29年4月1日現在、佐賀県内の施設数合計は315園。内訳は、公立幼稚園9園、私立幼稚園30園、施設型幼稚園12園、幼稚園型認定こども園11園、幼保連携型認定こども園52園、保育所型認定こども園3園、保育所198園です。傾向としては幼稚園と認定こども園の内訳が大きく動いております。

こうした中、昨年度は子ども子育て支援新制度の啓発を目的に、広く子育て中の県民やPTA会員を対象に知事のご参加を得て第1回「こどもがまんなかPROJECT in SAGA」フォーラムを持ちました。

今年度は国会議員をはじめ県議会議員の皆様のご理解と幼児教育振興法の早期成立への御支援をいただくべく、6月23日に表題のイベントを開催しました。

開会にあたっては全九州私立幼稚園連合会会長 土居孝信様にご挨拶をいただき、第1部の研修会では全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 田中雅道様にご講演いただきました。ご講演はとても分かりやすく、中身の濃いお話で、途中参加者からは「最初から聞きたかった」との声が上がるなど好評でした。

第2部は懇談会を持ちました。議員の皆様にご各テーブルに分散着座いただき各地域、各園の実情を聴いていただきました。会終了後、国会議員やPTAの方からは「勉強会を続けてもらいたい」「今秋にでもできませんか」との声もありました。

講師の田中雅道様はじめご参会の方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告いたします。

（（一社）佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会政策振興委員長、佐賀市・鳳鳴乃里幼稚舎／松永茂樹）

編集後記

「20050810」という写真展を見ました。保育所での事故でお子さんを失った母親が、七回忌を経て、大学で写真を学び、その卒業制作として、お子さんの遺品を被写体とした写真展を開催しました。展覧会を紹介した新聞記事によると、母親は「遺品を一つ一つ見つめ、何百回もシャッターを切った。カメラを通して息子の死と初めて向き合えた。」「個展のタイトルは息子の命日からとって20050810とした。」とありました。

写真には、遺品だけが存在し、本来、そこに写っ

ているはずの幼児は写っていません。

この事故については「死を招いた保育」（猪熊弘子・著）に詳細が描かれています。朝、4歳児クラスは近くの畑に散歩に行ったが、園に帰ってからは、人数確認されることもなく、給食の時に、食器が余っていたことから、はじめて当該児がいないことに気がついたのだそうです。園児は物として数えられるものではなく、一人一人が個性のある、かけがえのない我が子なのです。

（調査広報委員・樫村文夫）

平成 29 年度（第 9 回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
福岡県 福岡市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は12月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	山田眞理子（子どもと保育研究所ぶろほ所長） 北野幸子（神戸大学准教授）	6 時間	平成 29 年 12 月 2 日	150 人	平 29-80012-100885 号
東京都 千代田区	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は12月16日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	黒田秀樹（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員会専門委員、東筑紫短期大学講師、西南学院大学短期大学部非常勤講師、学校法人黒田学園さらさら星幼稚園理事長・園長） 宮下友美恵（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員長、静岡英和学院大学短期大学部非常勤講師、常葉学園短期大学非常勤講師、学校法人静岡豊田幼稚園園長）	6 時間	平成 29 年 12 月 17 日	150 人	平 29-80012-100886 号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
福岡県 福岡市	本講習では、幼稚園を巡る近年の状況の変化と平成 30 年施行される新教育要領について理解を深めることを目指します。なお、本講習は12月2日開催の必修講習と連続して行うものです。	坂田和子（福岡女学院大学教授、福岡女学院大学大学院教授） 田中雅道（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）	6 時間	平成 29 年 12 月 3 日	150 人	平 29-80012-301791 号
東京都 千代田区	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は12月17日開催の必修講習と連続して行うものです。	加藤篤彦（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事・研究研修委員会副委員長、（公社）全国幼児教育研究協会理事、学校法人武蔵野学園理事武蔵野東第1・第2幼稚園園長） 田中雅道（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）	6 時間	平成 29 年 12 月 16 日	150 人	平 29-80012-301792 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
群馬県 前橋市	本講習は、国公立の区別なく、幼児教育における専門的な知識や技能の習得、保育教諭としての資質向上のための意義ある講座とするために、「環境と関わる力」の発達を支えているものについて考える。特に、①幼児が身近な環境とどのように関わりながら、どんな発達をしていくのか、②友だちや保育者などの周りの人がいることで環境との関わりがどう変わっていくのか、を中心に講義と演習を行う。	柳野（育英短期大学教授） 金子仁（育英短期大学教授） 佐藤有香（こども教育宝仙大学准教授）	6 時間	平成 29 年 12 月 25 日	30 人	平 29-80012-507954 号
佐賀県 佐賀市	近年、保育や幼児教育の領域において、とみに、人の一生涯に亘る心身の健康や幸せの土台になるものとして、乳幼児期に培われる非認知的（社会情緒的）な心の力に注目が集まっています。今回の講習では、その非認知的な心の力とは何なのか、その豊かな発達を支え促すものとして、なぜ、周囲との大人との緊密なアタッチメントがとりわけ大切な役割を果たすと言えるのか、ということについて考えてみたいと思います。	遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科教授）	6 時間	平成 30 年 1 月 6 日	80 人	平 29-80012-507955 号